

神戸大・本紙提携

## 「神戸地域講座」から

④

アナウンサーといえば、昔から活発で明るい性格と思われがちだが、中学生までは、無口で引込み思案な子だった。ハスキーな地声が聞き取りにくいのか、聞き返されるのが嫌で、自分から話さなくなっていた。

運命が変わったのは高校に入ってから。初めての音楽の授業。先生から「とても個性的な声をしているなあ」と言われ、「君は君のままがいい」と、肯定されたように感じ、前を向くことができた。コーラス部に入って発声を学び、思いを乗せて声を出すことの大切さを知ると、周りの反応も変わった。そして、この声で何かを伝えられる仕事に就きたいと考えるようになった。NHK神戸放送局のニュース

キャスターとなり、最後の番組を終えたとき、視聴者からの電話で、自分の声を楽しみに待っている人がいたことを知った。

どんな場面でも、受け手に思いを巡らせ、温かな言葉を使おうと心に刻みきつかけになった。阪神・淡路大震災では兵庫県

の広報専門員として、災害対策

本部からの情報を被災者へ発信する役割を担った。刻々と状況が変わる中、必要な情報を必要

### 「声」と「言葉」で心に響くプロの話し方

言葉のOFFICEかのん代表

川邊 暁美さん



かわべ・あけみ 神戸女学院大卒、フリーアナウンサー。兵庫県広報専門員などを経て、自身の経験を生かした話し方講座や講演を全国で行う。神戸市在住。

## 伝える力が人生切り開く

とする人に届けなければいけない。納得し、動いてもらわなければ伝わったことにはならない。どんな語りかけをすればいいのかを考え続けた。

話し方の講座では、まず、相手の心を動かすための三つの要素を教えている。聞きやすい声で、誰にでも分かる言葉を使うこと。納得し共感を得られるような内容に構成すること。姿勢や表情に気を付けること。

感性を研ぎ澄まし、いろんな情報をキャッチして、言葉の引き出しを増やすのも大事。目の前で時間を共有する人が一番大切な人だと思い、言葉を紡いでいくことを習慣つけてほしい。

声と言葉で、思いや考えを相手の心に響くように伝える力。それは、自分らしい人生を切り開く「生きる力」になる。

(まどめ 神戸大学大学院・工藤靖樹)